

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西巣鴨小 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
222	217	18	14

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策			
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価概要	学校関係者評価の意見		評語		
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					51	127	7	4	28	6	4	2	1	1	6	12	0	0	6年生は、中学校との交流や授業体験、1～5年生は、幼稚園との交流をしている。次年度に向けて、5年生と年長児の関わりは、特に力を入れている。特に1年生は、いくつかの園と交流している。	保育園や幼稚園との交流が始まってよかった。西巣鴨幼稚園以外の幼稚園との交流も考えてほしい。	A	小中連携・保幼小連携などについて、学習面・生活面ともに引き続き充実させる。連携したことが保護者に伝わるように、学校だよりやHPで発信していく。
II	確かな学力の育成	II-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	59	139	8	1	10	0	10	2	0	2	6	12	0	0	肯定的評価が84%以上。デジタル教科書(算数・外国語)を活用したり、映像を見せたり、児童がタブレットに入力したものを共有したりするために、大型モニターをほぼ毎時間活用した。児童に問題解決や調べ学習のツールとして、タブレットを活用させた。各教職員のさらなるスキルアップを目指す。	児童がタブレットをを使いこなせるように、活用してもらいたい。勉強に関係ないことを調べるのが当たり前になってしまいがちな弊害も大きいと感じる。	A	ICTや情報担当教員やICT支援員を中心にタブレット端末の有効な活用について研修をする。学んだことを教員同士で共有し、児童の学力向上やわかりやすい授業につなげていく。授業では、タブレットを使うことが目的にならないように、児童の学力向上につながるような活用をさせていく。			
		II-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		73	110	19	4	11	2	8	0	0	4	6	12	0	0	肯定的評価が88%。道徳主任を中心に、豊かな心の育成のための教育活動を実践してきた。道徳教育以外にも、全学年対象に飼育しているうさぎとの触れ合う時間を設け、生命を大切に育てる態度や思いやりを育成した。	道徳地区公開講座の保護者を対象とした講座が令和5年度と同じだったので、行かないかと思っていた。	A	道徳地区公開講座は、前年度と内容がほぼ同じ(「SDGs」の達成に向けてわたしたちができること」という内容)だったせいか参加人数が少なかつたため、道徳教育につながる講演をしてもらって講師を呼ぶなど内容を改善する必要がある。			
III	豊かな心の育成	III-1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおり、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		61	130	8	2	16	1	9	1	0	3	4	14	0	0	肯定的評価が90%以上。体育の学習はもちろんです。それ以外でも休み時間活用した「にしすっ子タイム」や「プチ運動会」「持久走タイム」「縄跳びタイム」など体力向上に向けた取り組みを実施した。給食試食会、栄養士と養護教諭による健康や食に関する授業などを実施した。	給食試食会では、野菜がいっぱいで健康的な給食でありたいと思った。過程では、品数や栄養バランスにそこまで気を遣えないため、給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。	A	指導教諭(体育)を中心に、教員は体育の授業について学ぶ機会をもつことができていたため、来年度も続ける。その他の取り組みも引き続き実施し、児童の体力向上につなげる。1年生給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。			
		III-2	学校は、生命を大切に育てる態度や思いやり、優しい心を育てている。		68	131	7	2	9	1	10	1	0	2	4	12	2	0	肯定的評価が90%以上。体育の学習はもちろんです。それ以外でも休み時間活用した「にしすっ子タイム」や「プチ運動会」「持久走タイム」など体力向上に向けた取り組みを実施した。給食試食会、栄養士と養護教諭による健康や食に関する授業などを実施した。	給食試食会では、野菜がいっぱいで健康的な給食でありたいと思った。過程では、品数や栄養バランスにそこまで気を遣えないため、給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。	A	指導教諭(体育)を中心に、教員は体育の授業について学ぶ機会をもつことができていたため、来年度も続ける。その他の取り組みも引き続き実施し、児童の体力向上につなげる。1年生給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。			
IV	健やかな体の育成	IV-1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		76	136	2	1	2	4	8	1	0	1	12	6	0	0	肯定的評価が90%以上。体育の学習はもちろんです。それ以外でも休み時間活用した「にしすっ子タイム」や「プチ運動会」「持久走タイム」など体力向上に向けた取り組みを実施した。給食試食会、栄養士と養護教諭による健康や食に関する授業などを実施した。	給食試食会では、野菜がいっぱいで健康的な給食でありたいと思った。過程では、品数や栄養バランスにそこまで気を遣えないため、給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。	A	指導教諭(体育)を中心に、教員は体育の授業について学ぶ機会をもつことができていたため、来年度も続ける。その他の取り組みも引き続き実施し、児童の体力向上につなげる。1年生給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。			
		IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		73	126	7	2	9	3	7	1	0	3	5	13	0	0	肯定的評価が90%以上。体育の学習はもちろんです。それ以外でも休み時間活用した「にしすっ子タイム」や「プチ運動会」「持久走タイム」など体力向上に向けた取り組みを実施した。給食試食会、栄養士と養護教諭による健康や食に関する授業などを実施した。	給食試食会では、野菜がいっぱいで健康的な給食でありたいと思った。過程では、品数や栄養バランスにそこまで気を遣えないため、給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。	A	指導教諭(体育)を中心に、教員は体育の授業について学ぶ機会をもつことができていたため、来年度も続ける。その他の取り組みも引き続き実施し、児童の体力向上につなげる。1年生給食試食会と給食試食会の参加人数が多いため、給食試食会として一本化して実施する。			
V	一人一人を大切に教育の推進	V-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。		42	113	14	5	43	1	9	0	1	3	7	11	0	0	3項目を平均すると肯定的評価が76%以上。いじめ未然防止・早期発見・早期対応のため、毎月「なかよし調査」を実施してきた。児童が困っているとき、教員は傾聴し、保護者との連絡を密にし、児童の安心できる環境を築いてきた。生活指導連絡会で内容を共有したり、毎月運営委員会後に不登校やいじめに関する委員会を開催したりした。必要に応じて保護者には特別支援教室やSCを紹介した。	学校の取り組みのおかげで、安心して通えている。学年をこえた温かい雰囲気がとてもよい。子供たちのために、毎日、丁寧な指導に感謝している。毎日の学校生活が充実している様子が子供からわかる。児童に寄り添った指導で、過ごしやすき環境を整えている。	A	日常生活で、いじめの身となるような些細なことも見逃さないように、児童の様子を見ていくようにする。いじめ防止に向けてのアンケート調査や心理検査の分析を行う時期を明確にし、その体制づくりを行う。いじめ防止に関しては、保護者の協力が必要なため、保護者会で話題にあげるようにする。SNSを使う上での注意点についてしっかり指導する。些細なことでも、各クラスで起こったことを生活指導夕会で共有する。			
		V-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		62	118	13	3	21	1	8	1	1	3	6	12	0	0	肯定的評価が78%以上。学年や学級で、多少の差はあるものの、全体的には落ち着いて学校生活を送っている。保護者や地域の意見や要望について、すぐに改善すべきところは改善した。改善に時間を要するものは、運営委員会で話し合っ解決していった。	子どもは落ち着いて学校生活を送れている。昨今の時代背景から難しいかもしれないが、授業中のおしゃべり等、他の児童に迷惑をかける行為に対しては徹底した方がいい。	A	さまざまな行事で保護者から集めた感想や意見について、校内で検討し教育活動の改善に生かしていく。学校で検討したことを発信し、学校教育の見える化を進める。			
		V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。		70	95	3	1	48	4	6	1	0	3	6	12	0	0	肯定的評価が84%以上。学校公開では、毎回同じ教科にならないようにしたり、それ以外の日は、児童の様子をHPに平均1日1回あげることができた。教員にHPアップの仕方を知らせた。誰でもHPにアップできるように、再度周知していく。地域人材を発掘するために、学校運営連絡協議会を活用したり、保護者に呼びかけたりする。	学校だより(西巣の風)が、他学年のもの一枚ですべて把握でき、見やすい。学校だよりをもう少し早くHPアップしてもらいたい。保護者クラスルームをほとんど活用できていない。学校からのお知らせやアンケートなどオンラインにしたい。	A	来年度は、豊島区で「すぐる」を取り入れるので、ほとんどのものがそれを通して実施できる。令和8年度のCSに向けて準備をしていく。HPにアップする内容については、校内で確認し、改善すべきところは改善していく。			
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。		64	120	17	7	9	3	9	1	0	1	2	14	2	0	肯定的評価が87%以上。移動教室や運動会などで、たけのこ学級と通常の学級とのかわり合いを大切にしている。児童の実態により、たけのこ学級の児童は、通常の学級で授業を受け交流をしている。高学年は委員会やクラブでの交流もある。	たけのこ学級と通常の学級の交流は一部の行事のみ。普段の授業、給食、遊びの中で自然にかかわれるようになったら良いと思う。	A	普段の授業では、児童の実態があるため、たけのこ学級の全員が通常の学級で学習することは難しいが、たけのこ学級と通常の学級の児童が、自然にかかわれるような場(にしすっ子タイム、クラブ、委員会など)で、交流を意識した指導や声かけをさらにしていく。			
		VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	43	127	8	8	31	2	9	2	0	1	3	15	0	0	肯定的評価が84%以上。学校公開では、毎回同じ教科にならないようにしたり、それ以外の日は、児童の様子をHPに平均1日1回あげることができた。教員にHPアップの仕方を知らせた。誰でもHPにアップできるように、再度周知していく。地域人材を発掘するために、学校運営連絡協議会を活用したり、保護者に呼びかけたりする。	たけのこ学級と通常の学級の交流は一部の行事のみ。普段の授業、給食、遊びの中で自然にかかわれるようになったら良いと思う。	A	普段の授業では、児童の実態があるため、たけのこ学級の全員が通常の学級で学習することは難しいが、たけのこ学級と通常の学級の児童が、自然にかかわれるような場(にしすっ子タイム、クラブ、委員会など)で、交流を意識した指導や声かけをさらにしていく。				
VII	家庭・地域との連携	VII-1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	63	128	15	6	4	5	7	1	0	1	8	10	0	0	肯定的評価が84%以上。学校公開では、毎回同じ教科にならないようにしたり、それ以外の日は、児童の様子をHPに平均1日1回あげることができた。教員にHPアップの仕方を知らせた。誰でもHPにアップできるように、再度周知していく。地域人材を発掘するために、学校運営連絡協議会を活用したり、保護者に呼びかけたりする。	学校だより(西巣の風)が、他学年のもの一枚ですべて把握でき、見やすい。学校だよりをもう少し早くHPアップしてもらいたい。保護者クラスルームをほとんど活用できていない。学校からのお知らせやアンケートなどオンラインにしたい。	A	来年度は、豊島区で「すぐる」を取り入れるので、ほとんどのものがそれを通して実施できる。令和8年度のCSに向けて準備をしていく。HPにアップする内容については、校内で確認し、改善すべきところは改善していく。				
		VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	59	135	8	5	10	3	8	2	0	1	4	14	0	0	肯定的評価が87%以上。移動教室や運動会などで、たけのこ学級と通常の学級とのかわり合いを大切にしている。児童の実態により、たけのこ学級の児童は、通常の学級で授業を受け交流をしている。高学年は委員会やクラブでの交流もある。	たけのこ学級と通常の学級の交流は一部の行事のみ。普段の授業、給食、遊びの中で自然にかかわれるようになったら良いと思う。	A	普段の授業では、児童の実態があるため、たけのこ学級の全員が通常の学級で学習することは難しいが、たけのこ学級と通常の学級の児童が、自然にかかわれるような場(にしすっ子タイム、クラブ、委員会など)で、交流を意識した指導や声かけをさらにしていく。				
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、インクルーシブ教育の観点から、たけのこ学級と通常の学級との交流及び共同学習への取り組みに関する教育を推進している。	73	116	8	1	18	6	5	1	0	2	9	9	0	0	肯定的評価が87%以上。移動教室や運動会などで、たけのこ学級と通常の学級とのかわり合いを大切にしている。児童の実態により、たけのこ学級の児童は、通常の学級で授業を受け交流をしている。高学年は委員会やクラブでの交流もある。	たけのこ学級と通常の学級の交流は一部の行事のみ。普段の授業、給食、遊びの中で自然にかかわれるようになったら良いと思う。	A	普段の授業では、児童の実態があるため、たけのこ学級の全員が通常の学級で学習することは難しいが、たけのこ学級と通常の学級の児童が、自然にかかわれるような場(にしすっ子タイム、クラブ、委員会など)で、交流を意識した指導や声かけをさらにしていく。				
IX	働き方改革	IX-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。										5	13	0	0	ICT活用により、授業、成績処理、その他の業務など効率化を進められている。休暇の教員が出て、すばやく業務分担をし、「チーム学校」を意識して取り組んでいる。		A	特定の教員に業務が偏っているところがあるため、業務分担できることはしていく。来年度も「チーム学校」を一人一人が意識し、チームで課題を解決し、教職員同士が助け合える学校を目指す。					

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある